

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成23年9月21日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873101190		
法人名	株式会社シーケル		
事業所名	グループホームウイステリア倶楽部	ユニット名	東館
所在地	〒311-3115 茨城県 東茨城郡 茨城町 前田 1707-349		
自己評価作成日	平成23年9月21日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0873101190&amp;SCD=320&amp;PCD=08">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0873101190&amp;SCD=320&amp;PCD=08</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・当施設はお祭りや防災訓練を通して地域との交流を深めている施設です。職員は地域の研修に参加したり、地域の方々に認知症介護の理解を深めてもらう為閉鎖的にならず、開放的な雰囲気作りに努めています。また、入居者様が持っている個々の能力を大切にしながらコミュニケーションを図り、楽しみや役割を持って生活が送れるよう支援しています。施設内も天井を高くしたり、ユニットの中に中庭を設ける等外光を採り入れた明るい作りとなっており、中庭を囲むように居室を配置することで見守りがし易く入居者様も孤立することがなく生活できております。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
I 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域密着型サービスの意義や役割を職員全体で確認している。利用者一人ひとりの自由な生活を意識した理念であり、ご家族の協力も頂きながら個々の要望にも添えるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎年恒例の秋祭りに地域の方々を招待し交流に努めている。また、散歩や買い物で外出をし、地域と繋がりながら暮らして行ける様にしている。職員は地域のゴミ拾い等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・藤の花便りで施設生活の場を知って頂き、いつでも気軽に相談等して頂けるように努めている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・定期的に運営推進会議を開催し、地域の代表者や行政に出席頂き、報告や話し合いを行う中で意見や指摘を頂いている。また、消防訓練等にも参加頂いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・行政の代表者に会議に出席して頂き、意見を頂くと共に、地域包括主催の研修等に参加し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・外部研修に参加したり、施設内でのケアカンファ等で話し合いをしている。当施設は夜間以外の玄関等の施錠もしないようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加し、また、施設内でも話し合う場を設け、職員全体で理解できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修等に参加しているが、内部研修での勉強会等までは行っていない。今後、そのような機会を設けたいと思っている。
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に当施設でのケアに対する考え方や実際の取り組みを丁寧に説明し、理解と同意を得ている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱を設け、ご家族の様々な意見をいただけるようにしている。また、入居者やご家族からの意見、要望は会議等で話し合い、反映できるようにしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年1回の個人面談で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。管理者も日々の仕事の中でコミュニケーションを図りながら意見や思いを受け止めるようにしている。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・一人ひとりの職員のモチベーションを向上させる為、昇給や資格取得による手当で支給等労働条件の整備に努めている。
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修の機会を確保し、必要と思われる研修には参加できるように配慮している。また、職員の経験や知識に合わせて研修計画を立て、全員が参加できるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修や地域の行事参加の際に交流を図り情報共有に努めている。今後、積極的に施設訪問を行う等サービス向上のための努力をしていく。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前の面談で安心して入居頂けるようコミュニケーションを図っている。また、安心して生活が送れるよう関係作りに職員全体で係り、早い段階で生活に慣れて頂いている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族が不安に思っていることを解り易く説明し、要望等をよく聴き、可能な限り要望に沿えるように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事前に入居者、ご家族、関係機関等から情報を頂き、支援しなければならない事を早い段階で見極めアセスメントを行っている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者と職員は生活の中で自然に支えあえる関係を築いている。昔話を聞かせてくれる等暮らしを共にしながらの関係を築いている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員はご家族の思いに寄り添いながら面会時や電話、毎月の手紙等で近況を報告し、情報を共有することで共に支える関係を築いている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居者様が自らの意思でご家族に電話を掛けたり、本人からの手紙をお送りしたり等本人の思いを大切にしている。また、通院、墓参り等今までの生活が途切れないよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士で声掛けをしたり、日常生活の中でお互いを気遣ってあげられる関係作りが出来るよう職員が調整役となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入居中に培った関係を大切にして、入院時には御見舞いに行ったり、退去後のご家族の相談等に応じるなど継続的に支援できるよう努めている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・その人らしい暮らしが続けられるように本人の言葉や表情に耳を傾け、出来る範囲で買い物や外出等支援している。また、電話や手紙等も支援している。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人やご家族からこれまでの暮らしや生活環境を聞くことで把握に努めている。入居後のコミュニケーションの中でこれからの暮らしに対する希望を聞くようにしている。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの生活リズムや心身の状況を把握すると共に入居者様の持っている力に合わせてながら日々の身体の変化にも柔軟に対応している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月に一度、担当職員が中心になりモニタリングを行っており、必要時にはカンファレンスも行っている。都度介護計画の変更を行い、ご家族に説明している。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録はセンター方式を用いて、気付き等はマーカーで印を付け、申し送りやノートなどで職員間の情報を共有している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・急な家族との外出や本人からの要望に沿えるようその時々ニーズに柔軟に対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・定期的な保育園児との交流や行事などで地域住民等と交流し、また、散歩等で一人ひとりが生活を楽しむよう支援している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族や本人の希望に応じてかかりつけ医や協力病院を受診し、入居者が安心して継続的な医療を受けられるように配慮している。また、訪問医療を受ける方も支援している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の気づきを看護職員に伝えて意見を聞くようにしている。また、主治医や医療機関へも相談し、適切な受診が出来るよう支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した際には定期的に面会に行き、ご家族や病院と情報交換を行い出来るだけ早期に退院できるよう努めている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時にご家族から重度化に対する意向を聞いている。入居者の状態が変化した場合は家族、協力医と相談しながら対応している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急救命などの内部研修を定期的に行っており、急変時には適切な対応が取れるように実践力を身につけている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練を行っている。今年の震災時には職員と地域の方々が協力し合いながら入居者様に怪我させる事なく協力体制を築く事ができた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛け等を行っているが、馴れ合いの関係から家族の様な言葉が出てしまうときがあるので注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々のかかわりの中で入居者様が希望や考えを自由に言ったり、物事を選択したり決定できるよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの持っている能力を活かし洗濯物たたみや掃除等の手伝いをしてもらっている。個々のペースに合わせて生活できるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・頭髪を気にする入居者様には時間を掛けて自ら整容していただいたり、外出の際服を選ぶなどで支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・おやつなどの希望があれば要望に合わせて購入している。お酒なども主治医の制限がない限り提供し、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分量は毎日記録している。栄養がうまく取れない方は主治医と相談し高カロリー食を採り入れる等バランスを考えている。	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後個々で歯磨きやうがいを行っている。また、嚥下状態により肺炎等を起こさないよう食後の口腔ケアには気を使っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・個々の排泄間隔や習慣を把握し、トイレへの声掛けや誘導、介助を行っており、身体状況に合わせてオムツやリハビリパンツの使用もしている。日中は出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分や食事量、バランスに気をつけており、記録している。排泄チェックにて必要に応じて主治医処方薬も併用している。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・個々がゆっくり入浴していただけるよう支援している。拒否のある方に対しては無理強いをせず、タイミングをみたり職員を変える等配慮し、身体状況に応じて機械浴等も使用している。
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・体調に応じてソファや居室で休息できるよう支援している。また、安心して休んでも頂けるよう声掛けや使い慣れた寝具の使用等もしている。
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋を個別にファイルして目的や用量等解る様になっている。また、状態に変化があった場合記録をし、主治医に相談している。
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・家事の手伝い等個々が役割を持てるよう支援している。晩酌やイベント参加等で気分転換を図っていただいたり職員との会話の中で楽しみを持てるようにしている。
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・日々の買い物や散歩、外出等個々の希望に沿えるように対応しており、場所によっては家族と相談しながら協力している。



自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・ご家族の了解を得て自分で金銭の管理をしている方もいる。お預かりした金銭の中から希望のものを購入したり等支援している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・希望で電話を掛けたり、手紙を書いたりして頂いている。入居者の思いがご家族に届くよう支援している。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・利用者同士の関係や雰囲気作りのため席替えを行ったりしている。また、季節感を感じて頂けるよう飾り付けを作ったり、居心地の良い空間が出来るよう支援している。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・食卓を気の合う利用者様がコミュニケーションを図れるよう配慮したり、ソファ等では思い思いに過ごせるような居場所作りをしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・入居時に馴染みのある家具や食器等をお持ち頂き、入居後に出来るだけ居心地よく過ごせるよう家族と協力しながら支援している。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・施設内はすべてバリアフリーで各所に手摺を配置し安全に過ごせるようにしている。トイレや浴室、居室等では個々が出来ることを尊重しながら職員が支援している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない